



## 『Japanese Song COVERS vol.2』

発売日 2025年8月2日 製品番号 PP-002

価格 2500円(税込み)

All Arranged: With The Wind Produced: Pleasure Planning

Recorded at STUDIO "Le Soleil Du Matin" in June / 2025

Recorded, Mix & Mastering : YUICHI ISHIKAWA

Photo: JUN MASUYAMA Cover Design : RYUJI TAO

2020年、全世界を襲ったパンデミック。活動の場がなくなった私達が、多くの方々の協力を得て2021年に発表した「Japanese Song COVERS vol.1」は大変好評を頂きました。

この度、それに引き続き「Japanese Song COVERS vol.2」を発表出来る運びとなり、応援して下さいの皆様、ご尽力頂いた皆様、制作して下さいの「Pleasure Planning」に感謝申し上げます。

2025年は昭和元年からちょうど100年にあたります。各所で昭和100年プロジェクトが盛んに行われており、これを機に昭和を振り返る良い機会と思い、今回のvol.2では昭和のヒット曲を集めました。

全楽曲のアレンジは、今回のレコーディングの為に書き下ろしました。皆様にとってお聴き馴染みのナンバーが今までの記憶と一味違う新鮮な響きで聴こえる事と思います。どうぞ楽しんでお聴き下さい。

【With The Wind】田口悌治 & 桜井ゆみ

### 1 恋の予感 1984年 安全地帯 (作詞: 井上陽水 作曲: 玉置浩二)

安全地帯は北海道旭川市で結成されたロックバンド。この曲は最初、松井五郎氏が作詞を担当したがうまくゆかず、井上陽水氏が担当することになり、出来た歌詞に名作詞家の松井氏も脱帽したというエピソードがある。

原曲はロックバラード調の曲だが、冒頭をルバートテンポで妖艶な雰囲気、途中からミディアムスイングになりギターソロ、テナーサックスソロと続き、ジャジーなムードを演出

### 2 リンゴ追分 1952年 オリジナルアーティスト: 美空ひばり

(作詞: 小沢 不二夫(PD) 作曲: 米山 正夫©1967 By Columbia Songs, Inc.)

当時15歳だった美空ひばりの主演映画『リンゴ園の少女』の主題歌「リンゴ園の少女」のB面楽曲

伝統的な日本民謡風の曲をアフロアフリカンなテイストにアレンジ、上村がドラムス以外にジャンベ(アフリカの伝統的な打楽器)を担当。桜井と浦がその他のパーカッションを担当し、更にプリミティブな要素を付加する

ピアノのモダンなソロとそれに続くギターソロの対比が面白い

### 3 SWEET MEMORIES 1983年 松田聖子 (作詞: 松本隆 作曲: 大村雅郎)

松田聖子14枚目のシングル「ガラスの林檎」のB面扱いの楽曲。歌謡曲界のバラッド曲として誰もが知る人気のある楽曲をブラジルのパルティドというリズムを用いて明るい雰囲気にアレンジ。

コードアレンジのポイントは「失った」という歌詞のところをマイナーコードにリハーモナイズし言葉と音をリンクさせている。鍵盤ハーモニカの爽やかで柔らかい音がリズムと相まって、まるで南国の島にいるような雰囲気

### 4 伊勢佐木町ブルース 1968年 青江三奈 (作詞: 川内康範 作曲: 鈴木庸一)

横浜市中区の繁華街、伊勢佐木町のご当地ソングとして知られ、青江三奈の溜息混じりの妖艶な歌唱が話題になった昭和の名曲。

ラテンとスイングを組み合わせてリズムックにアレンジ。ハイテンションなアルトサックスのソロに続きロックフィール全開のギターソロ、その後突然バンドオフボーカルとベースのデュオに突入。スリリングなアレンジに仕上がっています

5 セーラー服と機関銃 1981年 薬師丸ひろ子（作詞：来生えつこ 作曲：来生たかお）

赤川次郎原作、角川映画で大ヒットした同タイトル映画のテーマ曲。来生たかお本人の歌唱ではタイトルが「夢の途中」に変わる

曲が本来持っているアンニュイな雰囲気をもっと強調するようにクラシカルなヨーロッパアンジャズのイメージを意識し、コードチェンジを大幅に変更。ボーカル、ピアノ、ソプラノサックスだけのシンプルなサウンドながら深遠な世界感を表現

6 もしもピアノが弾けたなら 1981年 西田敏行（作詞：阿久悠 作曲：坂田晃一）

西田敏行主演『池中玄太80キロ』第2シリーズの主題歌「いい夢みろよ」のB面楽曲で挿入歌として使われたが、その後反響が大きくヒットした事でA面に昇格した楽曲

1960年代ジャマイカで発祥した“レゲエ”のリズムでアレンジ。レゲエ特有のギター奏法、裏打ちのリズムカッティングとオルガンのハーモニーが、この曲の本来持っている素朴さと、そこはかかない切なさを表現するのに一役買っている

7 十戒(1984) 1984年 中森明菜（作詞：売野雅勇 作曲：高中正義）

驚くべきは、初めに松任谷由実の歌詞が付いていたらしい、ところが方向性の違いからボツになり売野氏に作詞が発注されたという

原曲は8ビートのロック調の曲だが、3拍子のややハードなジャズワルツに変更し、少し大人びたクールで強い女性をイメージしたアレンジに。コード進行とリズムアレンジにも手を凝らし、更にジャジーさを強調した

8 UFO 1977年 ピンクレディー（作詞：阿久悠 作曲：都倉俊一）

阿久氏がイースター島に旅した際、同行した横尾忠則氏がUFOを呼ぼうと言い出し、本当に光る物体を目にし、帰国後この歌詞を書いたというエピソードがある。都倉俊一の発案でシンセサイザーを用い、宇宙的な雰囲気を演出したというみんなが知っている昭和の大ヒット曲を全く違うテイストにアレンジする為にサルサというキューバ発祥のダンスブルなリズムを使用。ピアノのトゥンバオとクラベとコンガによる独特のパターンで始まり、サックス3管（ソプラノ、アルト、テナー）によるホーンセクションと続く豪華なアレンジ。ハモリとは別にメインボーカルをダブリング（二重録音）して音の厚みを出している

9 クリスマス・イブ 1983年 山下達郎（作詞・作曲：山下達郎）

発表後から今日まで、長年に渡り歌い継がれているJ-POPクリスマスソングの定番曲。もとは81年、竹内まりやのアルバム用に書いたが不採用になり、もったいないので山下達郎自身が歌うことにしたというエピソードがある

原曲は切ないポップスナンバーですが、ギタートリオのシンプルな編成ながらコード進行を大幅にリハーモナイズしウォームなジャズバラッド風なテイストになっている

10 フレンズ 1985年 レベッカ（作詞：NOKKO 作曲：土橋安騎夫）

レベッカはBOØWYと共に80年代の第二次バンドブームの先駆けになった日本のロックバンド

ボーカルのNOKKOによると、中学3年生の時初めて出来たボーイフレンドの事を書いた曲だという

激しいロック調の曲をアコースティックなスパニッシュ調にアレンジ。フラメンコギターとボンゴとハンドクラップによる情熱的な導入部に続き歌が入り、それからベースとソプラノサックスが入り更にボルテージを上げていく

【編曲後記】

面白いと感じたのは、最初からヒット狙いではなかったB面用楽曲とか、主題歌ではなく挿入歌とか、ボツから復活した詞、曲が大変多いということです。いわゆる「じゃない方」が売れるという、作り手の意図に反した現象、これは曲を作る私たちにとっても考えさせられる問題で、ある意味読めない面白さというか怖さを感じる次第

実は、この作品を作るまでに沢山のアレンジを試しましたが、作品に納めなかったアレンジの方がウケてたとしたら、、なんて考えますね。でも大丈夫、もちろんこのCDでも楽しんで頂きたいのですが実際ライブに足を運んで頂いたらCDでは聴けない曲やアレンジも楽しめるはずです。ぜひライブにもお越し頂いて生の声、生の演奏に触れてみて下さい！